



2026 年 8 月 5 日
一般社団法人 ワクチン問題研究会

【解説資料】

米国上院で公開された 2021 年 2 月時点の「既知のリスク」と、
我が国における情報検証の緊急性について

— mRNA ワクチンの重大リスクとパンデミックの真実を隠蔽した米当局の責任 —

2026 年 7 月 24 日、米国上院のランド・ポール議員により、米国のコロナ対策の最高責任者であったアンソニー・ファウチ氏らの内部 E メール等の公式文書 (1,100 ページ超) が公開されました。

さらに 7 月 29 日には米国上院にて同氏の公聴会が開催されました。現在、米国ではパンデミックの起源とワクチン政策に関する総括が本格化しています。本稿では、一般の方々に向けて、今アメリカで何が起きており、それが日本の私たちにとってどう直結するのかを分かりやすく解説します。

1. アンソニー・ファウチ氏とは何者か、なぜ追及されているのか

アンソニー・ファウチ氏は、前米国国立アレルギー・感染症研究所 (NIAID) の所長であり、パンデミック期間中、世界の感染症対策とワクチン推進を牽引した中心人物です。特筆すべきは、同氏が「日米の医学協力の促進」に寄与したとして、2023 年春に日本政府から『旭日重光章』を受章している点です。

つまり、我が国のコロナ対策やワクチン政策に対しても、政府が国家の勲章を授与するほど絶大な影響力を持っていた人物なのです。

また、ファウチ氏は 2020 年 12 月に開催された第 49 回日本免疫学会学術集会において、「COVID-19 ワクチンへの期待」をテーマに特別講演を行いました。その中で、科学的エビデンスに基づくデータの重要性を強調するとともに、新型コロナワクチンがパンデミック収束の鍵になるとの認識を示しており、その発言は当時の日本における感染症対策やワクチン政策に対して、大きな影響を与えたと考えられます。

しかし現在、ファウチ氏は米議会から極めて厳しく追及されています。なぜなら、彼がコロナパンデミックを引き起こした「ウイルスの起源」と、被害を拡大させた「ワクチンの推進」の両方に深く関与し、情報を隠蔽してきた疑いが濃厚になっているからです。

具体的には、中国の武漢ウイルス研究所で行われていた「機能獲得研究 (ウイルスの感染力や毒性を人為的に強力にする研究 : GOF)」に対し、ファウチ氏らが米国から資金提供を行い、深く関与していたことが明らかになりつつあります。

つまり、人為的に作られたウイルスによってパンデミックという「問題」を作り出し、その解決策として安全性の不確かな「mRNA ワクチン」を人類の相当数に接種させたという、未曾有の人為的災害 (人災) の張本人である可能性が浮上しているのです。

2. 側近の起訴と証拠隠滅：追い詰められる米当局

このような疑惑に対し、米国の司法機関も動き出しています。

直近では、ファウチ氏の長年の右腕であったデビッド・モレンス元上級顧問が、コロナの起源や機能獲得研究に関する公的なやり取りを、私用メール（Gmail）を使って不法に隠蔽・破棄するよう指示した嫌疑で、米国司法省に刑事起訴されました。

現時点では、ファウチ氏本人は法網を逃れている状態（時効等の壁）にありますが、周辺の証拠隠滅が次々と立件されたことで、彼に対する追及の包囲網は確実に狭まっています。

3. 公開された内部メールの核心：ワクチンの危険性は「既知」だった

今回、米上院で公開されたファウチ氏の内部文書の中には、mRNA ワクチンの安全性に関する極めて重大なやり取りが含まれていました。一般の国民には「ワクチンは腕の筋肉に留まり、数日で消えるから安全だ」と説明されていた裏で、実は次のような事実が共有されていました。

- 開発トップからの直接警告（2021 年 2 月 8 日）： 2023 年のノーベル賞受賞者であり mRNA ワクチンの開発者であるドリュー・ワイスマン（Drew Weissman）博士は、ファウチ氏に対し「ワクチン成分（mRNA を含む脂質ナノ粒子）が卵巣や子宮に取り込まれ、胎盤を通過して胎児に到達し、羊水中で免疫反応を引き起こす」という動物実験の驚くべき結果を直接報告していました。
- 単なる「移動」ではなく「発現と炎症」の確認： このメールで最も重要な点は、ワクチン成分が体中を巡るだけでなく、移動した先の臓器や胎児のところで「実際にウイルスのタンパク質を作り出し、免疫反応（炎症等）を引き起こすこと」を、開発者自身が明確に確認していたという事実です。
- 規制側（NIH）も「腕に留まるというのは不正確」と認識（2021 年 3 月）： 米国立衛生研究所（NIH）の担当官も、内部メールにおいて「mRNA が腕の筋肉内に留まるという前提は非常に不正確である」とハッキリ認めていました。

4. 時系列が持つ重大な意義（日本の職域・一般接種の前だった）

このやり取りが行われた「2021 年 2 月～3 月」という時期は、日本において mRNA ワクチンの大規模な職域接種や一般層への接種が本格化する「前」の出来事です。

つまり、日本国内で「妊婦にも安全」「注射部位に留まる」というキャンペーンが流布され、多くの国民が腕を差し出していた裏側で、米国の開発トップや規制当局の間では、胎盤通過や全身の臓器への分布リスクが既に「既知の事実」として完全に共有されていたことが客観的証拠によって証明されたのです。

5. 今後の要請と結論

本資料の公開により、製薬企業および日本の規制当局（PMDA・厚生労働省）が、特例承認時にこれらの深刻なデータをどこまで把握しており、どの情報を意図的に国民や医療現場に隠し続けてきたのかという「情報開示と責任」の問題が、決定的な争点となります。とりわけ、これほどの隠蔽工作に関与していた疑いのある人物（ファウチ氏）に旭日重光章を授与し、その方針を無批判に受け入れてきた日本政府の責任は極めて重いと言わざるを得ません。

mRNA ワクチンによって世界中で未曾有の健康被害が出ていることは、決して陰謀論などで

はありません。当研究会では、科学的真実と医療倫理に基づき、引き続き行政への制度改善の提言および、事実関係の厳しい追及を続けてまいります。

<出典>

1. 米国上院議員ランド・ポール事務所 公開資料

Senator Rand Paul - Reading Room

<https://www.paul.senate.gov/readingroom/>

2. 米国上院議員ランド・ポール事務所 公開資料

Anthony Fauci Documents / Fauci Awards - Final Redacted Document (2026 年 7 月 24 日付公開資料)

“7. 24. 2026_Fauci-Awards_FINAL_REDACTED.pdf”

https://www.paul.senate.gov/wp-content/uploads/2026/07/7.24.2026_Fauci-Awards_FINAL_REDACTED.pdf

3. 在日米国大使館・領事館（在日米国大使館）公式発表

「2023 年春の叙勲：アンソニー・ファウチ博士への旭日重光章授与」（2023 Spring Conferment of Decorations - Dr. Anthony Fauci）

https://www.us.emb-japan.go.jp/itpr_ja/2023-spring-conferment-fauci.html

4. エムスリー株式会社（m3.com）「m3.com 臨床ニュース」掲載記事

Fauci 氏が免疫学会で挨拶、COVID-19 ワクチンに期待示す

<https://www.m3.com/clinical/open/news/852042>

5. PBS NewsHour（Associated Press 配信記事）

“Justice Department accuses former Fauci adviser of concealing communications related to COVID research”（司法省、ファウチ元顧問による COVID 研究関連通信の隠蔽を巡り訴追）

<https://www.pbs.org/newshour/health/justice-department-accuses-former-fauci-adviser-of-concealing-communications-related-to-covid-research>

以上